

||| 1. 主旨 |||

『景観開花。』は、土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場を提供するとともに、多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示すための設計競技イベントである。高度経済成長期の日本では早急な社会基盤整備が求められ、特定の機能を果たすための画一的な土木施設が多く生み出された。しかし一定の社会基盤が整うにつれ、その場所が持つ意味や役割に合い、風景に調和した土木デザインを求める機運が高まりつつある。そういった土木デザインが美しい景観を実現するものと信じ、『景観開花。』は誕生した。

2018年迄の15年に渡る景観開花の歴史を振り返ると、第1回から第10回に至るまでの10回は未来へつなぐ新時代の土木デザインの提案を求めてきた。また第11回から第15回までの5回は「まち」に潜む問題の顕在化に対し、人々の生活の接点としての「まち」とそれを支える土木構造物へのあり方についての提案を求めてきた。

昨年度は「土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場」、「多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示す」という本イベントの原点に立ち返り、激変する社会情勢に合わせた今後の新たな土木デザインのあり方の提案を新たな形を含めた様式で行う土木設計コンペとしてリニューアルした。

本年度の『景観開花。』もこれを継承する。東日本大震災から10年、これからの防災のあり方が模索される中、「Pre-Costruction」と題して、海岸空間のあり方を問う。応募者には沿岸地域に固有の海との関わり合いを十分考慮し、海岸構造物によって地域の安全と魅力の維持・向上を両立することで地域の持続可能性を高める土木デザインの提案を求める。災害の激甚化、人口が減少する日本におけるこれからの防災へとつながるような提案が生まれることを期待している。

||| 2. 設計競技募集要項 |||

2.1 テーマ

「Pre-Costruction」

東日本大震災から10年が経過し、復興事業は大詰めを迎えている。10年を経て、被害や震災からの復旧・復興の実像が明らかにされつつある。特に復興時において散見された課題の多くは、人口減少や高齢化を前提としての復興であったことに起因する。人口減少下のまちづくりに対する事業制度も計画技術も明確に存在しない中で、まちを被災前よりも災害に強くすることだけでなく、地域の魅力を高めて将来的にも持続可能にすることを、両立しなければならなかった。

その点、巨大な海岸構造物はまちの安全性を高める一方で、地域に固有の生業や景観など地域の魅力を阻害しかねない。特に防潮堤に関する議論はメディアで数多く取り上げられてきた。そのような中、東日本大震災の復興では、土木デザインや土木・建築の横断的な取り組みによって、安全性と魅力の維持・向上の両立を目指した新しいアプローチが見られたのも事実である。

このような新しい取り組みは、自然災害が多発・激甚化する中で、人口減少時代に突入した日本のこれからのまちづくりの萌芽であると言える。

さて、今後起こるとされる南海トラフ巨大地震は先の巨大地震の被害を大きく上回ることが想定されている。東日本大震災の復興で見られた事業集中による建設コストの上昇や時間の経過の中で、住民の防災意識の変化などを目の当たりにしたことで、今後被害が想定される地域での減災を目指す「事前復興」の取り組みが進められている。復興時の課題は決して新しい問題が突如現れるのではなく、被災前からその地域にあった問題が時間を早めて深刻化して現れる。つまり、地域には被災前から復興の課題があり、人口減少や被災を見越した平時のまちづくりにおける準備や経験の積み重ねが重要となる。

以上のことから、今後被害が予想される沿岸地域において、安全と地域の魅力の維持・向上の両立を土木デザインによって解決することを目指し、人口減少時代におけるこれからの新しい海岸空間のあり方をテーマとする。

2.2 評価の観点

- 時代を踏まえた海岸空間の理想像の広がり
- 海岸空間の理想像に対する、土木構造物または土木施設を中心とした、ハードに主眼を置いた提案の具体性と現実性
- 提案がテーマに即しているか
- 提案がもたらす沿岸地域の持続可能性

これらを総合的に評価する。

2.3 設計条件

- 海岸空間中心の提案であること。
- 海岸空間の利活用に対する、土木構造物または土木施設を中心とした、ハードに主眼を置いた提案であること。
- 原則海岸法等の諸法律を遵守すること。逸脱する場合はその箇所および理由、実現のための方策等を合わせて明示すること。
- テーマに沿う都市を対象として選定し、選定理由と合わせて明示すること。
- 実在する敷地を対象として明示すること。
- 地質調査や構造計算は求めないが、構造の現実性は確保すること。

2.4 対象者

- 2021年4月1日現在、大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専門学校・高等学校に籍をおく学生、もしくは経験年数5年以下の社会人であること。なお、景観開花。実行委員会および審査委員の関係者の参加を妨げない。一次審査は公平を期すため匿名で審査を行う。
- 上記条件を満たす人物によるグループでの応募も可とする。
- 後述するオンラインでのweb会議ツールを用いて遠隔開催される公開最終審査会に参加できること。作品提出時点で参加を確約できない場合、入選の対象外とする。

2.5 提出物

以下を提出物および提出条件とする。締切日までに「(2) 模型」を除く 4 点すべてを提出したもののみ、審査対象とする。

(1) パネルデータ

提案の意図を表現する図面および説明文を記載したもの。A1 サイズ片面 1 枚に収まるよう作成し、パネルデータを PDF 形式としたもの。応募者に別途案内する作品データ提出フォームからの提出を求める。

<ファイル名> 応募登録時に交付されるエントリーNo.をファイル名の先頭に使用し、「〇〇パネル.pdf」とすること。

例：「00 パネル.pdf」

(2) 模型

提案の意図をよく表現する縮尺により作成したもの。個数は問わないが、展示に要する空間は一辺が 1m の立方体に収まること。最終審査へ進出した場合に作成した模型の提出を求める。提出方法は「3.6 作品提出」を参照すること。

(3) 模型写真データ

模型の意図をよく伝える構図で撮影した、JPEG 形式の写真データ。枚数は 1 枚以上 5 枚以下とする。応募者に別途案内する作品データ提出フォームからの提出を求める。

<ファイル名> 応募登録時に交付されるエントリーNo.をファイル名の先頭に使用し、また全枚数中の何枚目かを末尾に示し、「〇〇写真□/△枚目.jpg」とすること。

例：「00 写真 1/5 枚目.jpg」

(4) 動画データ

パネルや写真では表現しきれない情報を伝える 30 秒以内の映像。一次審査において利用する。ファイル形式は MP4 形式とする。応募者に別途案内する作品データ提出フォームからの提出を求める。

<ファイル名> 応募登録時に交付されるエントリーNo.をファイル名の先頭に使用し、「〇〇動画.mp4」とすること。

例：「00 動画.mp4」

(5) 作品概要データ

一次審査時に使用する 100 文字以内の作品の概要。応募者に別途案内する作品データ提出フォームに直接入力すること。

一次審査は公平を期すため匿名で審査を行うため、すべての提出物に氏名や所属先を明記してはならない。

2.6 その他

- 応募作品は未発表のものに限る。
- 応募作品は1エントリーにつき、1作品に限る。
- エントリーは1人につき、1エントリーに限る。
- 応募作品の著作権は、応募者に帰属する。
- 主催者および実行委員会は、本企画の主旨の範囲内で、著作権者名を明示のうえで、報告書、記者発表資料、作品集、Web等を通じて、応募作品および提案されたアイデア、情報、データ等を公表できるものとする。
- 課題に対する質問は受け付けない。規定外の問題は応募者の自由決定とする。

||| 3. 設計競技審査 |||

3.1 審査方法

本年度は、一次審査会・最終審査会ともにオンラインでの開催とする。

一次審査会では、パネルデータ・模型写真データ・動画データ・作品概要を用い、入賞作品を5点前後決定する。また後日、最終審査会を公開で開催（live 配信を予定）し、入賞者は作品のプレゼンテーションと質疑応答を行う。審査委員はこれらにより最優秀賞と優秀賞を決定し、それ以外の入賞作品を佳作とする。

3.2 審査委員

審査委員長 篠原 修
審査委員 阿部 俊彦
内藤 廣
八馬 智
臂 徹

(敬称略・五十音順)

3.3 賞金等

- 賞金 | 最優秀賞 20 万円 × 1 点
優秀賞 10 万円 × 1 点
佳作 4 万円 × 数点
特別賞 2 万円 × 数点
- 参加賞 | 一次審査会における審査委員からの自作品の講評

3.4 会場

一次審査会 | オンラインでの web 会議ツールを用いた遠隔開催（詳細は未定）

最終審査会 | 審査員のみを集めた対面開催、live 配信を予定（詳細は未定）

3.5 日程

エントリー開始 | 2021 年 7 月 22 日（木・祝）（海の日）

エントリー締切 | 2021 年 10 月 3 日（日）

提出物締切 | 2021 年 10 月 10 日（日）

一次審査会 | 2021 年 10 月 29 日（金）

最終審査会 | 2021 年 11 月 13 日（土）

3.6 作品提出

作品データ提出フォーム | 応募者に別途案内する。

模型提出宛先 | 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-06
東北大学工学研究科・工学部 人間・環境系事務室 気付
201 土木演習室 A 景観開花。実行委員会宛

- 模型の提出は郵送、宅配便または直接持参による最終審査会前日**必着**とし、作品の提出にかかる費用はすべて応募者の負担とする。
- 郵送または各社宅配便を利用の場合、配達時間を平日 14 時から 18 時までの間に指定し、到着日時を予め実行委員会に連絡すること。直接持参の場合も、必ず到着予定時刻を予め実行委員会に連絡しておくこと。
- 直接持参の場合も含め、梱包は提出物が損傷しないよう厳重に行うこと。
- 模型を分割して送付する場合、必ず組み立て方を明記すること。
- すべての提出物には別途指定フォーマットのラベルを印刷し、必要事項を記入のうえ、梱包に貼り付けること。
- メール本文には、エントリーNo.、氏名、作品名を必ず記載すること。